



# StorageGRIDを手動で設定する

## StorageGRID software

NetApp  
December 03, 2025

# 目次

StorageGRIDを手動で設定する .....	1
FabricPoolの高可用性 (HA) グループを作成する .....	1
FabricPoolのロードバランサエンドポイントを作成する .....	2
FabricPoolのテナントアカウントを作成する .....	5
S3バケットを作成し、アクセスキーを取得する .....	6
FabricPoolデータ用のILMを構成する .....	8
FabricPoolのトラフィック分類ポリシーを作成する .....	10

# StorageGRIDを手動で設定する

## FabricPoolの高可用性 (HA) グループを作成する

FabricPoolで使用するためにStorageGRIDを構成する場合、オプションで1つ以上の高可用性 (HA) グループを作成できます。HAグループは、それぞれにStorageGRID Load Balancer サービスが含まれるノードの集合です。HAグループには、ゲートウェイ ノード、管理ノード、またはその両方を含めることができます。

HAグループを使用すると、FabricPoolデータ接続を利用可能な状態に保つことができます。HAグループは、仮想 IP アドレス (VIP) を使用して、ロード バランサ サービスへの高可用性アクセスを提供します。HAグループ内のアクティブ インターフェイスに障害が発生した場合、バックアップ インターフェイスはFabricPool操作にほとんど影響を与えずにワークロードを管理できます。

このタスクの詳細については、"[高可用性グループの管理](#)"。FabricPoolセットアップウィザードを使用してこのタスクを完了するには、"[FabricPoolセットアップ ウィザードにアクセスして完了します](#)"。

開始する前に

- あなたは、"[高可用性グループのベストプラクティス](#)"。
- グリッドマネージャにサインインするには、"[サポートされているウェブブラウザ](#)"。
- あなたは"[ルートアクセス権限](#)"。
- VLAN を使用する予定の場合は、VLAN インターフェイスを作成しておきます。見る"[VLANインターフェイスを構成する](#)"。

手順

1. 構成 > ネットワーク > \*高可用性グループ\*を選択します。
2. \*作成\*を選択します。
3. \*詳細を入力\*手順では、次のフィールドに入力します。

フィールド	説明
HAグループ名	この HA グループの一意的表示名。
説明 (オプション)	この HA グループの説明。

4. \*インターフェイスの追加\*手順では、この HA グループで使用するノード インターフェイスを選択します。

列ヘッダーを使用して行を並べ替えるか、検索語を入力してインターフェイスをより速く見つけます。

1つ以上のノードを選択できますが、各ノードに対して選択できるインターフェイスは1つだけです。

5. \*インターフェイスの優先順位付け\*手順では、この HA グループのプライマリ インターフェイスとバックアップ インターフェイスを決定します。

行をドラッグして、「優先順位」列の値を変更します。

リストの最初のインターフェースはプライマリ インターフェースです。障害が発生しない限り、プライマリ インターフェースはアクティブ インターフェースになります。

HA グループに複数のインターフェースが含まれており、アクティブ インターフェースに障害が発生した場合、仮想 IP (VIP) アドレスは優先順位の最初のバックアップ インターフェースに移動します。そのインターフェースに障害が発生した場合、VIP アドレスは次のバックアップ インターフェースに移動し、これが繰り返されます。障害が解決されると、VIP アドレスは利用可能な最高優先度のインターフェースに戻ります。

6. IP アドレスを入力 の手順では、次のフィールドに入力します。

フィールド	説明
サブネットCIDR	CIDR 表記の VIP サブネットのアドレス (IPv4 アドレスの後にスラッシュとサブネットの長さ (0 ~ 32) が続きます)。  ネットワーク アドレスにはホスト ビットを設定しないでください。 例： 192.16.0.0/22。
ゲートウェイIPアドレス (オプション)	オプション。 StorageGRID へのアクセスに使用されるONTAP IP アドレスがStorageGRID VIP アドレスと同じサブネット上にない場合は、 StorageGRID VIP ローカル ゲートウェイ IP アドレスを入力します。ローカル ゲートウェイ IP アドレスは VIP サブネット内にある必要があります。
仮想IPアドレス	HA グループ内のアクティブ インターフェースに、少なくとも 1 個、最大 10 個の VIP アドレスを入力します。すべての VIP アドレスは VIP サブネット内にある必要があります。  少なくとも 1 つのアドレスは IPv4 である必要があります。必要に応じて、追加の IPv4 および IPv6 アドレスを指定できます。

7. HA グループの作成 を選択し、完了 を選択します。

## FabricPoolのロードバランサエンドポイントを作成する

StorageGRID はロード バランサを使用して、FabricPoolなどのクライアント アプリケーションからのワークロードを管理します。負荷分散により、複数のストレージ ノード間の速度と接続容量が最大化されます。

FabricPoolで使用するためにStorageGRID を構成する場合は、ロード バランサ エンドポイントを構成し、ONTAPとStorageGRID間の接続を保護するために使用されるロード バランサ エンドポイント証明書をアップロードまたは生成する必要があります。

FabricPoolセットアップウィザードを使用してこのタスクを完了するには、"[FabricPoolセットアップ ウィザードにアクセスして完了します](#)"。

開始する前に

- [グリッドマネージャにサインインするには、"サポートされているウェブブラウザ"](#)。

- あなたは["ルートアクセス権限"](#)。
- 一般的な["負荷分散に関する考慮事項"](#)だけでなく["FabricPoolの負荷分散に関するベストプラクティス"](#)。

#### 手順

1. 構成 > ネットワーク > ロード バランサー エンドポイント を選択します。
2. \*作成\*を選択します。
3. エンドポイントの詳細を入力 ステップで、次のフィールドに入力します。

フィールド	説明
Name	エンドポイントの説明的な名前。
ポート	負荷分散に使用するStorageGRIDポート。このフィールドは、最初に作成するエンドポイントに対してデフォルトで 10433 に設定されますが、未使用の外部ポートを入力できます。80 または 443 を入力すると、エンドポイントはゲートウェイ ノードでのみ構成されます。これらのポートは管理ノードで予約されています。  注意: 他のグリッド サービスで使用されるポートは許可されません。参照 <a href="#">"ネットワークポートリファレンス"</a> 。  StorageGRID をFabricPoolクラウド層として接続するときに、この番号をONTAPに提供します。
クライアントタイプ	*S3*を選択します。
ネットワークプロトコル	「HTTPS」を選択します。  注: TLS 暗号化なしでのStorageGRIDとの通信はサポートされていますが、推奨されません。

4. バインディング モードの選択 ステップで、バインディング モードを指定します。バインディング モードは、任意の IP アドレスまたは特定の IP アドレスとネットワーク インターフェイスを使用してエンドポイントにアクセスする方法を制御します。

モード	説明
グローバル (デフォルト)	クライアントは、任意のゲートウェイ ノードまたは管理ノードの IP アドレス、任意のネットワーク上の任意の HA グループの仮想 IP (VIP) アドレス、または対応する FQDN を使用してエンドポイントにアクセスできます。  このエンドポイントのアクセシビリティを制限する必要がない限り、*グローバル*設定 (デフォルト) を使用します。

モード	説明
HAグループの仮想IP	<p>クライアントはこのエンドポイントにアクセスするために、HAグループの仮想IPアドレス(または対応するFQDN)を使用する必要があります。</p> <p>このバインディングモードのエンドポイントは、エンドポイントに選択したHAグループが重複していない限り、すべて同じポート番号を使用できます。</p>
ノードインターフェース	<p>クライアントは、このエンドポイントにアクセスするために、選択したノードインターフェースのIPアドレス(または対応するFQDN)を使用する必要があります。</p>
ノードタイプ	<p>選択したノードのタイプに基づいて、クライアントは、このエンドポイントにアクセスするために、任意の管理ノードのIPアドレス(または対応するFQDN)または任意のゲートウェイノードのIPアドレス(または対応するFQDN)を使用する必要があります。</p>

5. テナントアクセスステップでは、次のいずれかを選択します。

フィールド	説明
すべてのテナントを許可する(デフォルト)	<p>すべてのテナントアカウントは、このエンドポイントを使用してバケットにアクセスできます。</p> <p>FabricPoolに使用されるロードバランサエンドポイントの場合、ほとんどの場合、すべてのテナントを許可するが適切なオプションになります。</p> <p>テナントアカウントをまだ作成していない場合は、このオプションを選択する必要があります。</p>
選択したテナントを許可する	<p>選択されたテナントアカウントのみがこのエンドポイントを使用してバケットにアクセスできます。</p>
選択したテナントをブロック	<p>選択されたテナントアカウントは、このエンドポイントを使用してバケットにアクセスできません。他のすべてのテナントはこのエンドポイントを使用できます。</p>

6. \*証明書の添付\*ステップでは、次のいずれかを選択します。

フィールド	説明
証明書をアップロードする(推奨)	<p>このオプションを使用して、CA署名付きサーバー証明書、証明書の秘密キー、およびオプションのCAバンドルをアップロードします。</p>
証明書を生成する	<p>このオプションを使用して、自己署名証明書を生成します。見る"<a href="#">ロードバランサのエンドポイントを構成する</a>"入力内容の詳細については、こちらをご覧ください。</p>

フィールド	説明
StorageGRID S3証明書を使用する	このオプションは、StorageGRIDグローバル証明書のカスタムバージョンをすでにアップロードまたは生成している場合にのみ使用できます。見る <a href="#">"S3 API証明書を設定する"</a> 詳細については。

7. \*作成\*を選択します。



エンドポイント証明書の変更がすべてのノードに適用されるまでに最大 15 分かかる場合があります。

## FabricPoolのテナントアカウントを作成する

FabricPool を使用するには、Grid Manager でテナント アカウントを作成する必要があります。

テナント アカウントにより、クライアント アプリケーションはStorageGRID上でオブジェクトを保存および取得できるようになります。各テナント アカウントには、独自のアカウント ID、承認されたグループとユーザー、バケット、オブジェクトがあります。

このタスクの詳細については、["テナントアカウントを作成する"](#)。FabricPoolセットアップウィザードを使用してこのタスクを完了するには、["FabricPoolセットアップウィザードにアクセスして完了します"](#)。

開始する前に

- グリッドマネージャにサインインするには、["サポートされているウェブブラウザ"](#)。
- あなたが持っている["特定のアクセス権限"](#)。

手順

1. \*TENANTS\*を選択します。
2. \*作成\*を選択します。
3. 詳細入力の手順では、次の情報を入力します。

フィールド	説明
Name	テナント アカウントの名前。テナント名は一意である必要はありません。テナント アカウントが作成されると、一意の数値アカウント ID が割り当てられます。
説明 (オプション)	テナントを識別するのに役立つ説明。
クライアントタイプ	FabricPoolの場合は <b>S3</b> である必要があります。
ストレージクォータ (オプション)	FabricPoolの場合はこのフィールドを空白のままにします。

4. 権限の選択手順:

- a. プラットフォーム サービスを許可する を選択しないでください。

FabricPoolテナントは通常、CloudMirror レプリケーションなどのプラットフォーム サービスを使用する必要はありません。

- b. 必要に応じて、「独自の ID ソースを使用する」を選択します。

- c. \*S3 Select を許可する\*を選択しないでください。

FabricPoolテナントは通常、S3 Select を使用する必要はありません。

- d. オプションで、\*グリッドフェデレーション接続を使用する\*を選択して、テナントが"[グリッドフェデレーション接続](#)"アカウントのクローンとクロスグリッドレプリケーション用。次に、使用するグリッドフェデレーション接続を選択します。

5. ルートアクセスの定義ステップでは、StorageGRIDシステムがテナントアカウントの初期ルートアクセス権限を持つユーザーを指定します。"[アイデンティティフェデレーション](#)"、"[シングルサインオン \(SSO\)](#)"、またはその両方。

オプション	これをする
アイデンティティ連携が有効になっていない場合	ローカル ルート ユーザーとしてテナントにサインインするときに使用するパスワードを指定します。
アイデンティティ連携が有効になっている場合	a. テナントのルート アクセス権限を付与する既存のフェデレーショングループを選択します。 b. 必要に応じて、ローカル ルート ユーザーとしてテナントにサインインするときに使用するパスワードを指定します。
ID連携とシングルサインオン (SSO) の両方が有効になっている場合	テナントのルート アクセス権限を付与する既存のフェデレーショングループを選択します。ローカル ユーザーはサインインできません。

6. \*テナントの作成\*を選択します。

## S3バケットを作成し、アクセスキーを取得する

StorageGRID をFabricPoolワークロードで使用する前に、FabricPoolデータ用の S3 バケットを作成する必要があります。また、FabricPoolに使用するテナント アカウントのアクセス キーとシークレット アクセス キーを取得する必要があります。

このタスクの詳細については、"[S3バケットを作成する](#)"そして"[独自のS3アクセスキーを作成する](#)"。FabricPoolセットアップウィザードを使用してこのタスクを完了するには、"[FabricPoolセットアップ ウィザードにアクセスして完了します](#)"。

開始する前に

- FabricPoolで使用するためのテナント アカウントを作成しました。
- テナント アカウントへのルート アクセス権があります。

## 手順

### 1. テナント マネージャーにSign in。

次のいずれかを実行できます。

- グリッド マネージャーのテナント アカウント ページで、テナントの **Sign in** リンクを選択し、資格情報を入力します。
- Web ブラウザにテナント アカウントの URL を入力し、資格情報を入力します。

### 2. FabricPoolデータ用の S3 バケットを作成します。

使用する予定のONTAPクラスタごとに一意のバケットを作成する必要があります。

- ダッシュボードから\*バケットの表示\*を選択するか、ストレージ **(S3)** > \*バケット\*を選択します。
- \*バケットを作成\*を選択します。
- FabricPoolで使用するStorageGRIDバケットの名前を入力します。例： fabricpool-bucket。



バケットを作成した後は、バケット名を変更することはできません。

- このバケットのリージョンを選択します。

デフォルトでは、すべてのバケットは `us-east-1` 地域。

- \*続行\*を選択します。
- \*バケットを作成\*を選択します。



FabricPoolバケットに対して オブジェクトのバージョン管理を有効にする を選択しないでください。同様に、FabricPoolバケットを編集して **Available** またはデフォルト以外の一貫性を使用しないでください。FabricPoolバケットに推奨されるバケット一貫性は **Read-after-new-write** であり、これは新しいバケットのデフォルトの一貫性です。

### 3. アクセス キーとシークレット アクセス キーを作成します。

- ストレージ **(S3)** > マイアクセスキー を選択します。
- \*キーの作成\*を選択します。
- \*アクセスキーの作成\*を選択します。
- アクセス キー ID とシークレット アクセス キーを安全な場所にコピーするか、**.csv** をダウンロードを選択して、アクセス キー ID とシークレット アクセス キーを含むスプレッドシート ファイルを保存します。

StorageGRID をFabricPoolクラウド層として設定するときに、これらの値をONTAPに入力します。



将来StorageGRIDで新しいアクセス キーとシークレット アクセス キーを生成する場合は、StorageGRIDから古い値を削除する前に、新しいキーをONTAPに入力します。そうしないと、ONTAP は一時的にStorageGRIDへのアクセスを失う可能性があります。

# FabricPoolデータ用のILMを構成する

この単純なポリシー例を、独自の ILM ルールとポリシーの開始点として使用できます。

この例では、コロラド州デンバーの単一のデータセンターに 4 つのストレージ ノードを持つStorageGRIDシステムの ILM ルールと ILM ポリシーを設計していると想定しています。この例のFabricPoolデータは、fabricpool-bucket。



次の ILM ルールとポリシーは例にすぎません。ILM ルールを構成する方法は多数あります。新しいポリシーを有効にする前に、ポリシーをシミュレートして、コンテンツの損失を防ぐためにポリシーが意図したとおりに機能することを確認します。詳細については、"[ILMでオブジェクトを管理する](#)"。



データの損失を避けるため、FabricPoolクラウド層データの有効期限が切れたり、データが削除されたりする ILM ルールを使用しないでください。FabricPoolオブジェクトがStorageGRID ILM によって削除されないようにするには、保持期間を 永久 に設定します。

開始する前に

- あなたは、"[FabricPoolデータで ILM を使用するためのベスト プラクティス](#)"。
- グリッドマネージャにサインインするには、"[サポートされているウェブブラウザ](#)"。
- あなたは"[ILMまたはルートアクセス権限](#)"。
- 以前のStorageGRIDバージョンからStorageGRID 11.9 にアップグレードした場合は、使用するストレージ プールが構成されています。一般的に、データの保存に使用するStorageGRIDサイトごとにストレージ プールを作成する必要があります。



最初にStorageGRID 11.7 または 11.8 をインストールした場合、この前提条件は適用されません。これらのいずれかのバージョンを最初にインストールすると、サイトごとにストレージ プールが自動的に作成されます。

手順

1. 以下のデータにのみ適用されるILMルールを作成します。`fabricpool-bucket`このサンプルルールは、消去コード化されたコピーを作成します。

ルールの定義	値の例
ルール名	FabricPoolデータの 2 + 1 消去符号化
バケット名	fabricpool-bucket  FabricPoolテナント アカウントでフィルターすることもできます。
高度なフィルター	オブジェクト サイズが 0.2 MB を超えています。  注: FabricPool は4 MB のオブジェクトのみを書き込みますが、このルールは消去コーディングを使用するため、オブジェクト サイズ フィルターを追加する必要があります。

ルールの定義	値の例
基準時間	取り込み時間
期間と配置	0日目から永遠に保存  デンバーで 2+1 EC スキームを使用して消去コーディングによってオブジェクトを保存し、それらのオブジェクトをStorageGRIDに永久に保持します。   データの損失を避けるため、FabricPoolクラウド層データの有効期限が切れたり、データが削除されたりする ILM ルールを使用しないでください。
撮取行動	バランスの取れた

- 最初のルールに一致しないオブジェクトの複製コピーを 2 つ作成するデフォルトの ILM ルールを作成します。基本フィルター (テナント アカウントまたはバケット名) や高度なフィルターは選択しないでください。

ルールの定義	値の例
ルール名	2つの複製コピー
バケット名	なし
高度なフィルター	なし
基準時間	取り込み時間
期間と配置	0日目から永遠に保存  デンバーに 2 つのコピーを複製してオブジェクトを保存します。
撮取行動	バランスの取れた

- ILM ポリシーを作成し、2 つのルールを選択します。レプリケーション ルールはフィルターを使用しないため、ポリシーのデフォルト (最後の) ルールにすることができます。
- テスト オブジェクトをグリッドに取り込みます。
- テスト オブジェクトを使用してポリシーをシミュレートし、動作を確認します。
- ポリシーをアクティブ化する。

このポリシーを有効にすると、StorageGRID はオブジェクト データを次のように配置します。

- FabricPoolから階層化されたデータは `fabricpool-bucket` 2+1 消失訂正符号化方式を使用して消失訂正符号化されます。2 つのデータ フラグメントと 1 つのパリティ フラグメントが 3 つの異なるストレージ ノー

ドに配置されます。

- 他のすべてのバケット内のすべてのオブジェクトが複製されます。2つのコピーが作成され、2つの異なるストレージノードに配置されます。
- コピーはStorageGRIDに永久に保存されます。StorageGRID ILM はこれらのオブジェクトを削除しません。

## FabricPoolのトラフィック分類ポリシーを作成する

オプションで、StorageGRIDトラフィック分類ポリシーを設計して、FabricPoolワークロードのサービス品質を最適化できます。

このタスクの詳細については、「[トラフィック分類ポリシーを管理する](#)」。FabricPoolセットアップウィザードを使用してこのタスクを完了するには、「[FabricPoolセットアップウィザードにアクセスして完了します](#)」。

開始する前に

- グリッドマネージャにサインインするには、「[サポートされているウェブブラウザ](#)」。
- あなたは「[ルートアクセス権限](#)」。

タスク概要

FabricPoolのトラフィック分類ポリシーを作成するためのベスト プラクティスは、次のようにワークロードによって異なります。

- FabricPoolプライマリ ワークロード データをStorageGRIDに階層化することを計画している場合は、FabricPoolワークロードが帯域幅の大部分を占めるようにする必要があります。トラフィック分類ポリシーを作成して、他のすべてのワークロードを制限できます。



一般的に、FabricPool の読み取り操作は書き込み操作よりも優先されることが重要です。

たとえば、他の S3 クライアントがこのStorageGRIDシステムを使用する場合は、トラフィック分類ポリシーを作成する必要があります。他のバケット、テナント、IP サブネット、またはロードバランサ エンドポイントのネットワークトラフィックを制限できます。

- 一般的に、FabricPoolワークロードにサービス品質の制限を課すべきではなく、他のワークロードのみを制限する必要があります。
- 他のワークロードに課される制限は、それらのワークロードの動作を考慮する必要があります。課される制限は、グリッドのサイズと機能、および予想される利用量によっても異なります。

手順

1. 構成 > ネットワーク > \*トラフィック分類\*を選択します。
2. \*作成\*を選択します。
3. ポリシーの名前と説明（オプション）を入力し、「続行」を選択します。
4. 「一致するルールの追加」ステップでは、少なくとも1つのルールを追加します。
  - a. \*ルールを追加\*を選択
  - b. タイプには、ロード バランサ エンドポイント を選択し、FabricPool用に作成したロード バランサ エンドポイントを選択します。

FabricPoolテナント アカウントまたはバケットを選択することもできます。

- c. このトラフィック ポリシーで他のエンドポイントのトラフィックを制限する場合は、逆一致 を選択します。
5. 必要に応じて、ルールに一致するネットワーク トラフィックを制御するための 1 つ以上の制限を追加します。



StorageGRID は、制限を追加しない場合でもメトリックを収集するため、トラフィックの傾向を把握できます。

- a. \*制限を追加\*を選択します。
  - b. 制限するトラフィックの種類と適用する制限を選択します。
6. \*続行\*を選択します。
7. トラフィック分類ポリシーを読んで確認します。前へ\*ボタンを使用して戻って、必要に応じて変更を加えます。ポリシーに満足したら、[\*保存して続行] を選択します。

終了後

"ネットワークトラフィックのメトリックを表示する"ポリシーが期待どおりのトラフィック制限を適用していることを確認します。

## 著作権に関する情報

Copyright © 2025 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および/または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

## 商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。